

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-98	実施計画番号	124	事業開始年度	26
事務事業名	病害虫防除支援補助金			事業終了年度	28
担当課名	農林畜産課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等				関連事務事業	
背景や経緯等	カメムシ等の病害虫の防除作業のために必要な農薬費を補助する。				
事務事業の目的	1等米の生産比率の向上を図る。				
実施状況	十和田市地域再生協議会でとりまとめを実施し経営所得安定対策等に加入している農家の主食用水稲を対象に事業説明・申請業務を行った。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	6	6	6
	活動日数(日)	20	20	20
非常勤職員	人件費(千円)	888	888	888

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		6,400	6,400	6,400

【指標】

活動指標	活動指標名①		病害虫防除の実施状況			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	実施面積/対象水田面積		%	77	79	85
	活動指標名②		補助金支払状況			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		千円	6,398	6,380	7,300	
成果指標	成果指標名①		一等米比率			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	一等米/全量	%	目標値	90	90	90
			実績値	85	85	90
			達成度(%)	94%	95%	100%
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">現在の水稲作付において薬剤散布は必要であり、市内全域で一斉に取り組むことが有効であることから、妥当である。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	現在の水稲作付において薬剤散布は必要であり、市内全域で一斉に取り組むことが有効であることから、妥当である。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
現在の水稲作付において薬剤散布は必要であり、市内全域で一斉に取り組むことが有効であることから、妥当である。										
② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">水稲における病害虫一斉防除の取組が大分周知されてきており、病害虫発生状況によるものの、米の品質は向上してきている。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	2 / 6	水稲における病害虫一斉防除の取組が大分周知されてきており、病害虫発生状況によるものの、米の品質は向上してきている。	
	成果向上の余地	2 / 6								
	水稲における病害虫一斉防除の取組が大分周知されてきており、病害虫発生状況によるものの、米の品質は向上してきている。									
④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1							
⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">現在も人件費等の事務費をかせずに取り組んでいるため、これ以上削減の余地なし。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	現在も人件費等の事務費をかせずに取り組んでいるため、これ以上削減の余地なし。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	現在も人件費等の事務費をかせずに取り組んでいるため、これ以上削減の余地なし。									
⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市内の水稲作付者が全員対象となり、要した経費の一部を助成する事業のため、公平性について適正である。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	市内の水稲作付者が全員対象となり、要した経費の一部を助成する事業のため、公平性について適正である。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
市内の水稲作付者が全員対象となり、要した経費の一部を助成する事業のため、公平性について適正である。										
⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
現在の適性					18 / 20	改善の余地	2 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

農家の収入安定を目指し、米の高品質安定生産を目的に、地域ぐるみの一斉防除を行うため、講習会や事業説明会時に当事業の内容と実施効果を周知し防除率増加に向け進めて行く。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

実施向上に向け、カメムシの市内一斉防除について、説明会等による周知徹底や市HP・啓発チラシにより呼びかけるなど、防除について意識付けを進めるほか、農家の薬剤散布に係る経費の一部を助成することにより防除の推進を図る。